

週刊新潮5/4・5/11号4月27日発行の『プロフェッショナルドクターによる
難症例の眼科手術第1回』に、当院の院長 浅見哲先生が取り上げられました。

5/4・5/11号（2023年4月27日発売）



原和31年2月20日第三種郵便物認可 令和5年5月4・11日発行(木曜日発行)(4月27日発売)第68巻第17号

週刊新潮

5月4・11日ゴールデンウィーク特大号

特別
定価 480円

読者アンケート
実施中!



特集
「秋篠宮」英国への
ワインディングロード

17

プロフェッショナルドクターによる難症例の眼科手術

浅見眼科手術クリニック

愛知県・名古屋・大府 JR「共和」駅徒歩1分

2021年の夏に開院した専門クリニックに聞く、眼科手術の最前線。今回は、若い人でも油断できない「糖尿病網膜症」をテーマに、年間約1300件もの手術を執刀する浅見哲院長にお話をうかがった。

症例
01愛知県稲沢市
A.Iさん (35歳・女性)

30代半ばの既婚女性。20代の時に糖尿病を指摘され、当初眼科を受診したが、それ以降は内科も眼科も受診していなかった。ある日、視界が霞むことに気付いたが「一時的なもの」と考えて様子を見たところ症状が悪化、最寄りの眼科医院を受診。その場で、進行した網膜症と診断され、内科治療を始めるとともに浅見眼科手術クリニックを紹介された。ほかの身体的症状よりも先に「見え方」で糖尿病の悪化が発覚する典型的な症例。なお、この時、女性は妊娠初期だった。

進行が非常に早い
若い人の糖尿病網膜症

女性が浅見眼科手術クリニックを訪れたのは、同院の開業まもない2021年の7月のこと。この頃には、網膜症が悪化していた。

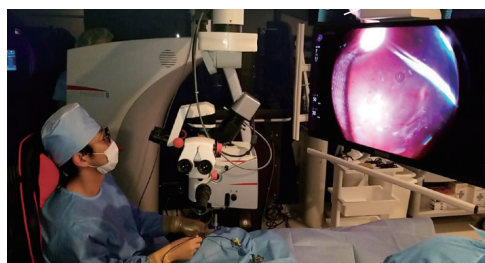
糖尿病網膜症は、糖尿病腎症や糖尿病神経障害とともに三大合併症に数えられる。日本における中途失明原因では、緑内障に続く第2位。網膜症は発症から10年を経過すると約半数に現れるとされるが、いつ患ったのかはつきりしないのが糖尿病の怖いところだ。



院長

浅見 哲
Tetsu Asami

名古屋大学医学部附属病院の医局長や県内有数の眼科専門病院の副院長などを歴任し、無数の手術を手がけてきた浅見院長。昨年1年間で約1300件もの手術を自ら執刀しているが、緑内障や網膜剥離など難易度もリスクも高い患者を受け入れる姿勢に、地域の医療機関から大きな信頼が集まっている。



術中の眼内の映像は、天井から吊った55インチの大型3Dモニターに高精細に映し出し、3Dメガネで立体映像を見ながら手術を行っている。

剥がれた網膜を修復し
視力は1.0近くまで回復

「目はすぐにでも手術が必要でしたが、同時に糖尿病の治療も始めなければならず、何よりお腹には赤ちゃんがいました。そこで、産婦人科の先生と治療法を相談しながら準備を進め、ご本人とご主人に現状と術式、リスクなどをすべて細かくご説

「若い方の糖尿病網膜症は進行が早く、妊娠中はさらに早まります」と浅見院長。すでに網膜剥離や硝子体出血があり、眼鏡をかけた矯正視力でも右目が0.08と視力標の一番上の大きなCの向きも判別できない程であった。30センチ先で手を振って見えるのがようやく分かる程度しか見えない左目は深刻で、「そのままにしたら失明は確実」（浅見院長）という状態だった。

浅見眼科手術クリニック

<https://asamiganka.com/>

浅見眼科手術クリニック

診療時間◆ 外来 9:00~12:00(月~土)
16:00~17:30(火のみ)休診日◆ 日・祝日・第1土曜・第3木曜
※手術は月・金の14:30~、水の10:00~
火の14:30~16:00

所在地◆ 愛知県大府市東新町2-165

電話◆ 0562-46-7700

「見えるから大丈夫」
ではなく「見えにくい
から受診」の判断を

元の眼科クリニックに戻り、現在は視力も両眼とも1.0近くまで回復。元気に子育てに励んでいるという。

一般の眼科クリニックでは困難なレベルの大手術で、どうにか失明を回避した本症例。浅見院長によれば、それでも増殖膜が網膜の裏側にまで張っていたのは不幸中の幸いで、裏まで回ると網膜に穴を開けて増殖膜を引きずり出したり、さらに重症の場合は、網膜を大きく切開して網膜をひっくり返して措置しなければいけないそうだ。

ひとことで糖尿病網膜症と言っても、具体的に現れる症状はさまざま。網膜の中心の黄斑が腫れる黄斑浮腫は視力そのものが低下し、硝子体出血は急に見えづらくなる。浅見院長に聞くと、注意したいのは「でも、見えているから大丈夫なはず」という希望的な判断だ。「本症例のような増殖網膜症の一段階手前、増殖前網膜症ならレーザー手術で重症化を食い止めることもできます。失明まで行かなくても、視力が深刻に落ちると自動車運転免許の更新もできなくなり、糖尿病と診断された方は、定期的に眼科を受診することを強くおすすめします」